14回

**第一節：メディアの物資性と歴史性**

一、メディアの情報性と物資性：新聞を巡る

二、スケール：範囲。社会の出来事に関心を持ち、今ここの生活の範囲を想像世界の中で広くさせていく。

ペース：進み具合。毎日のように我々が必ず新聞から社会の知るべき事の情報をもらう。これが新聞のもたらした近代社会のせわしい時間感覚　ペース　である。

パターン：見出しの大きな文字をリサーチすることで全体を把握しつつ、そこから興味のある記事を拾い出し、小さな活字で読むようにする。

三、メディアの歴史性

　1.ディアの今を過去から問う。

　　メディアは常に変化しつつあるけれど、人はしばしば自分が体験してきたメディアのあり方をごく普通の常識だと考えている。

2.歴史的な研究資料　直接的資料（一次資料）

　　　　　　　　　　間接的資料（二次資料）

3.メディアにおける二つの日付　　作成された出産された日付

　　　　　　　　　　　　　　　　それを読者や視聴者が接触し享受した日付

4.メディアの変化を読み取る方法

　①メディアの変化をどれぐらい幅の単位で考えるかという点。

　②類似現象との比較。

　③対象としている変化の原因、或は結果と考えられる事項との関連性。

　5.メディアの系譜学

　　　　　　　　　　フーコー

四、サウンドと身体的パフォーマンス

　1.サウンドスケープ

　2.　flow　とは　内発的に動機付けられた自己の没入感覚に伴う楽しい経験を指し、フロー状態にあるとき、人は楽しさ、満足感、状況のコントロール感の高まりなどを経験する。

　　　Flow理論とは　　人間発達のモデル　モチベーションの理論。

　3.　マルセルモース　身体技法

　　　マイケル・ポランニー　暗黙知（隠性知識）

　　正当周辺参加論　：共同体　個人　徒弟制　学習を捉える

五、「声」の文化—　声　と　文字　の連動から見えるメディア文化

　1.ウォルター・オング　メディアの歴史図式